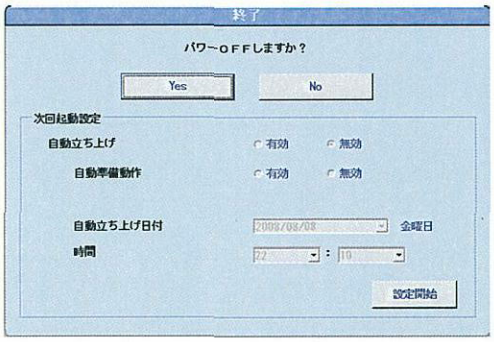
6.11 システムをシャットダウンする

すべての検体の分析が終了したら、システムをシャットダウンします。
シャットダウン後も、本装置の試薬保冷庫、STAT テーブル部、および反応槽（恒温槽）の温度は維持されます。また、ISE（オプション）が搭載されている場合は、ISE（オプション）の洗浄が定期的に自動で行われます。
なお、シャットダウンの操作は W2 またはフォトキャルの実行中でも行うことができます。W2 またはフォトキャルの実行中にシャットダウンの操作を行った場合には、W2 またはフォトキャルが終了した後に、自動的にシャットダウンします。

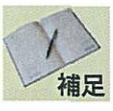
シャットダウンするには、次の操作を実行します。

1. **すべての検体の分析が終了していることを確認します。**
2. **ホーム**をタッチします。
   ホーム画面に戻ります。
3. **システム終了**をタッチします。
   「終了」ダイアログが表示されます。



4. **「システム条件」の「自動立ち上げ」設定を有効にしている場合は、「次回起動設定」に入力して、設定開始をタッチ後、設定終了をタッチします。**
5. **Yes** をタッチします。
   シャットダウンが開始されシステムが終了し、自動的に本装置の副電源が OFF になります。
6. **イオン交換水の元栓を確実に締めます。**

本装置はイオン交換水の元栓を制御できません。自動実行のため夜間や休日などにイオン交換水元栓を開放のまま無人放置する場合は、使用者の責任で水漏れがない確実な給水配管であることを事前に確認してください。



指定した日時に、システムを自動的に立ち上げ、W1 などを自動実行するように設定できます。

システムの自動的立ち上げ機能の設定→『7.1　自動立ち上げ機能を使う』

11.7 緊急停止あるいは停電からの復旧

停電または緊急停止した場合は、すみやかに主電源を切ってください。恒温槽および試薬保冷庫への電源も遮断します。

- 緊急停止する
- 停電または緊急停止後、分析装置をリセットする

分析モードの間に緊急停止または停電が起きた場合、作成された分析データを使用することはできませんので、分析装置上にある検体の分析を再度実行する必要があります。停電または緊急停止後、分析装置の電源を長時間 ON にしなかった場合は、試薬保冷機能が働いていないため、分析を再開する前に、試薬の状態をチェックしてください。

11.7.1 緊急停止する

緊急停止する最良の方法を説明します。

1. 分析装置前部の EM STOP（緊急停止）スイッチを押して、分析装置の主電源を OFF にします。
2. CTRL+Alt+Delete を押して、タスクマネージャーを表示させます。
3. シャットダウンをクリックして、実行しているソフトウェアを終了します。

11.7.2 停電または緊急停止後、分析装置をリセットする

停電の場合、あるいは緊急停止を行った場合は、以下の手順を実行してください。

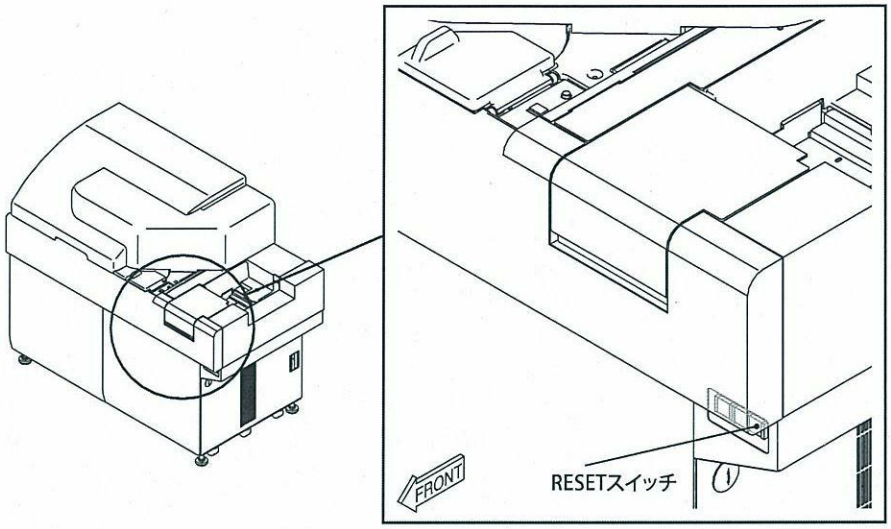
- 分析装置をリセットする
- サンプルを確認する
- 試薬を確認する

● 分析装置をリセットする

再検ワークリストを出力して、再検を行う必要がある検体を確認してください。

1. 分析装置前部の RESET スイッチを押します。
2. 10秒待ってから、ON（副電源）ボタンを押して、ソフトウェアをロードします。
3. メッセージ「Program down load to analyzer（アナライザーにプログラムをダウンロード）」が表示されます。

4. 次に、警報として「前回の電源切断が END 処理でない方法で行なわれています。データベースの再構築を行っています。」が表示されます（OK をクリックして警報を消します）。



● サンプルを確認する

1. 「ホーム」画面で**サンプルステータス**をタッチして、「サンプルステータス」画面を表示します。
2. **検体ステータス**をタッチします。
   装置上の検体の分析状況を一覧表示します。データ出力が完了したサンプル No. を確認します。

● 試薬を確認する

1. **メニューリスト > ルーチン > 試薬 > 試薬管理 > メイン**の順にタッチして、「試薬管理：メインタブ」画面を表示します。
2. **試薬チェック（F5）**をタッチします。
   「試薬チェック」ダイアログが表示されます。
3. **「全位置で残量チェック」**を選択します。
4. **「試薬 ID をチェック」**を選択します。
5. **開始**をタッチします。
   試薬チェックが開始され、画面上に「チェック中」と表示されます。
   チェック終了後、「試薬チェック済み」が表示されます。